

「医療事故調査制度」 どうすべきか？

シンポジウム
2024

① 遺族の立場から

宮脇 正和



医療過誤原告の会 会長

② 患者側弁護士の立場から

鈴木 利廣



弁護士

③ メディアの立場から

朝日新聞 編集委員



辻 外記子

日本医療安全調査機構 常務理事



木村 壮介

④ 事故調査の立場から

ご家族、大切な方のためにぜひ知っておいてください

日時：2024年2月12日（月・祝） 13：30～16：30

会場：全水道会館 4F 大会議室（東京・水道橋） 開場 13:00

※オンライン同時配信〈ZOOM ウェビナー〉

ウェビナー URL <https://us06web.zoom.us/j/83131734277>

ID：831 3173 4277

主催：患者の視点で医療安全を考える連絡協議会

共催：医療過誤原告の会 / 医療の良心を守る市民の会

申込先メールアドレス

hnagai@max.hi-ho.ne.jp



記念シンポジウム「医療事故調査制度 どうすべきか？」

主催：患者の視点で医療安全を考える連絡協議会

共催：医療過誤原告の会 / 医療の良心を守る市民の会

1999年1月11日そして2月11日に起きた医療事故から25年を迎える。この事故を契機に医療界及び医療を受ける立場の国民は、大病院で医療事故が起きたことに驚きを示した。2002年、国は「医療安全推進総合対策」を策定し、医療安全に向けての取り組みを始めた。

2015年10月医療事故調査制度を開始し、9年目を迎えているが、この間、この制度について課題が浮かび上がってきた。この制度は「医療事故の原因を究明し、再発防止策を作り、日本の医療・患者安全、質の向上の目指す」ことである。しかし、推進をリードすべき大病院でも事故報告をしないなど、制度に背を向ける医療機関が多く存在している。

そこで、このテーマに関する有識者が集い、今後、国民が信用できる制度にするための方策に関して提案し、討議するシンポジウムを下記の通り開催する。

1. 日時：2024年2月12日（月・祝）13：30～16：30（司会：川田綾子）
2. 会場：全水道会館 4F 大会議室（東京・水道橋）
文京区本郷1-4-1 TEL：03-3816-4186
＜ハイブリット方式＞会場＆ネット配信（ウェビナー）
3. 交通：JR「水道橋駅」東口から徒歩2分
都営地下鉄 三田線「水道橋駅」A1 出口から徒歩1分
4. 参加費：無料（会場にてカンパをお願いいたします）
5. 開催挨拶 永井裕之（患者の視点で医療安全を考える連絡協議会〔略称：患医連〕代表）
6. シンポジウム：座長 永井裕之（シンポジスト敬称略 プレゼン：各自20分）

【第1部】

- 1) 「遺族の立場から」 宮脇 正和（医療過誤原告の会 会長）
- 2) 「患者側弁護士の立場から」 鈴木 利廣（医療問題弁護団 初代代表幹事）

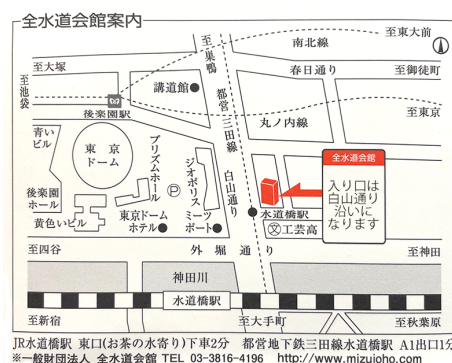
【第2部】

- 3) 「メディアの立場から」 辻 外記子（朝日新聞 編集委員）
- 4) 「事故調査の立場から」 木村 壮介（日本医療安全調査機構 常務理事）
7. パネルディスカッション：シンポジスト4名＋座長
8. 閉会挨拶 豊田郁子（患医連 事務局長）

申込先メールアドレス hnagai@max.hi-ho.ne.jp

申込記載：●氏名 ●メールアドレス ●立場（被害者・市民・医療者・メディア・法曹界など）

●参加方法「会場」か「ネット」



全水道会館までの地図

JR水道橋駅 東口(お茶の水寄り)下車2分 都営地下鉄三田線水道橋駅 A1出口1分
※一般財団法人 全水道会館 TEL 03-3816-4196 <http://www.mizuho.com>